

文系の科学 運命学

～実力も運のうち ストーリーを修正せよ～

八重樫泰樹^{*1}
Yaegashi Taiji

1. はじめに

日本経済新聞朝刊に「ミチクサ先生」(伊集院静著)が連載されていた。ここで、寺田寅彦と芥川龍之介が故夏目漱石を偲^{しの}んでの会話の中、漱石の本名「金之助」の由来が語られる。漱石は、庚申の日の申の刻に生まれた。その日に生まれた赤子は、一つ間違えれば大泥棒になるというので、名前的一部分に金の字をつけると大丈夫だということになった。そして芥川自身も、辰の年の辰の月の、辰の日の辰の時刻に生まれた(※1)のだと。寅彦も同様に寅年・寅の日に生まれた(※2)のだと……。最近オリンピックに出場した日本選手の多彩な名前を見聞きするにつけ、昔の命名は随分とわかりやすいものであったと感じる。それにしても、名に「金」の字を入れると凶星を制化^{せい化}できるであろうか。庚申の日の申の刻に生まれると如何なる運命となるか、四柱推命をツールに検証してみた。

※1: 芥川龍之介が「辰の刻」生まれであったかについては、確証がないとされている。

※2: 寺田寅彦は、明治11年11月28日生まれであるが、干支では、(年)戊寅、(月)癸亥、(日)庚戌である。つまり「寅年」生まれであるが、「寅の日」生まれではなく、「戌の日」生まれである。

2. 夏目漱石

夏目漱石は1867(慶応3)年1月5日生誕と記録にある。万年暦で60干支を確認してみた。(年)丙寅、(月)庚子、(日)庚辰・・・おや、まるで違うではないか。ここで、日本では旧暦から新暦(グレゴリオ暦)に替わったのが明治6年1月1日だったことを思い出した。「慶応3年1月5日」が旧暦表記だとすれば、新暦に変換すれば、慶応3年2月9日になる。これは(年)丁卯、(月)壬寅、(日)庚申にあたる。どうやら間違いなさそうだ。申の刻に生まれたというから、15:00～17:00のどこかであろう。旧暦なのに「西暦1867年」などと、ごちゃまぜで表記するからややこしくなる。さて、これを四柱推命の「命式」にまとめると、表1となる。

漱石の「元命^{げんめい}」は月柱の通変星である『偏印^{へんいん}』となる。この星が漱石の性格・運命を決定づける格となる。日干「庚^{ひのえ}」(陽の金)に対して月支「寅^ね」(陽の木)では「根」がつかない。それにしても命式中に「吉星」とはいえない「偏印^{へんいん}」が3つもある。「五行」でみると、金が3つあるが、金に剋される木も3つもある。しかも年干「丁^{ひのと}」(陰の火)と月干「壬^{みずのえ}」(陽の水)は干合して木におきかわる。すなわち、五行のうち「木」が太過^{たいか}しているのだ。裕福な家に生まれながらも家運が傾いており、両親との縁が薄く、親類で育てられることが多い運命を示す。

*1: 取締役 営業統括部長

表1 慶応3年2月9日 15:00～17:00 生まれの命式

空亡	時柱	日柱	月柱	年柱	
子丑	甲	庚	壬	丁	干
	申	申	寅	卯	支
	戊	戊	戊	甲	藏干
月令点 0 五行点 0 十二運勢点 3	偏財		食神	正官	通変星
身旺	偏印	偏印	偏印	偏財	
	建禄	建禄	絶	胎	十二運
		十干禄	天徳合		特殊星
水	金	土	火	木	五行分析
-	+	+	-	-	
1	3	0	1	3	

一生を通じて浮沈が多いが、学芸に秀でるので、医者・芸能で頑張れば成功する可能性がある。また子供との縁は儂い関係になりやすい。五行に偏りが多いため病気になりやすい。漱石の場合、一生にわたって、金が強くて木を剋する形なので、神経を病みやすい。日柱の「申」と月柱の「寅」が強烈に剋し合う特殊星「七冲」を構成していることから、夫婦間にトラブルが起きやすい。漱石の経歴を読むと、果たしてその通りに推移している。ただし、大泥棒(罪人)になるという先天運は読み取れない。推論だが、庚申の夜は眠らずに勤行するという「庚申待」(仏教)の因習があり、庶民においては「この日は眠ってはならない」→「眠ると泥棒が来る」という物語風に転化して、一部の地域では「この日に生まれると泥棒になる」に変化したのではなかろうか。それにしても、これだけ

「五行」で「金」が優勢な命式であるから、漱石が「金之助」と命名されるのは妥当であろう。

3. 芥川龍之介

このついでに芥川龍之介の命式を確認してみよう。辰の年の辰の月の、辰の日の辰の時刻となると、明治25年3月1日午前7:00～9:00生誕と断定できる。この場合の命式は表2となる。

芥川の元命は「食神」格。特徴的な命式で、辰が3つ以上ある場合は「自刑」となり、闘争精神が旺盛で災いを招きやすい性格となる。「辰」の五行である「陽の土」が旺盛となり、粘着質(こだわり)が強くなる。「陽の土」は「火」があれば好ましいのだが、命式上にない。壬辰の組合せは、特殊星「陽差」となる。この星をもつ男性は、父親とのトラブルが多く、酒や女性を好み夜遊びが多くなる傾向

表2 明治25年3月1日 7:00～9:00 生まれの命式

空亡	時柱	日柱	月柱	年柱	
午未	甲	壬	壬	壬	干
	辰	辰	寅	辰	支
	戊	戊	甲	戊	藏干
月令点 1 五行点 -2 十二運勢点 0	食神		比肩	比肩	通変星
身弱	偏官	偏官	食神	偏官	
	墓	墓	病	墓	十二運
		魁 天徳合 陽差	福星貴人		特殊星
水	金	土	火	木	五行分析
+	+	-	-	-	
3	0	3	0	2	

向にある。これが命式中に3つ存在する。特に日柱にある場合は「魁罡」(※3)という特殊星になる。これは「学芸・文学・闘争・孤独」を暗示する星であり、性格は厳格で、頭が良く、文章がうまい。そして、残念なことだが自殺者が多い傾向がある。彼の場合は、大運に「財星」「官星」の星回りが多いため、「食神」格に対して総じて相性が悪い。命式に含まれる「十二運」としては「墓」「病」しかなく、人生を通しての大運でも恵まれない。端的にいってしまうと、「頭脳優秀なのに運勢的にはあまり恵まれない」特徴的な資質を示す命式になっている。

以上2人の事例は避けられない宿命として断定されるものではない。彼らの命式は「このような成り行きに陥りやすい先天運を示している」という前提で意識し、人生の要所で選択を誤らないようアドバイスすることが運命学の要点である。

※3：特殊星「魁罡」をもつ著名人としては、ほかに太宰治、川端康成、三島由紀夫がいる。(「四柱推命学の完全独習」(三木照山著) 日本文芸社参照)

4. 運と幸福とストーリー

夏目漱石は、近代日本文学の頂点に立つ作家として知られ、その後の日本の小説家で漱石の影響を受けなかった者は皆無といえる。芥川龍之介は、「芥川賞」にその名が残る、日本を代表する小説家である。共に文壇において偉大な成功者のように思えるのだが、およそ何事か重大事を成しえる人物が四柱推命によると恵まれた命式にあるとはいえず、むしろ逆のケースが多い。2人とも、かなり尖った命式であり、新境地を開拓するような人の運命は苛烈を極めるといふことかもしれない。一般人の「幸福」とは程遠い。

一方、官僚やサラリーマンの世界においては、

その獲得できる地位の優劣は、およそ四柱推命で推定できるといわれている。当世、機会均等に教育を受けて一様に大学を出て就職(就官)し、公明正大な評価による昇進プロセスを経たとして、誰が部長に、役員に、社長にまで抜擢されるかというのは、ほぼ「運」次第なのである。ところが、人は因果関係とストーリー性を求め、納得感を欲する。

「実力も運のうち 能力主義は正義か?」(マイケル・サンデル著)では、ハーバード大学における学生の「自分の成功は自分の努力と才能による当然の結果」とする能力主義的信念に警鐘を鳴らしている。これが社会的格差の拡大を容認、助長する思想につながるからである。

これと似たような性向は、(当社ではないが)私の知り合いにも多くみられる。たとえば、自分が同期入社仲間にくらべて、突出して評価されていると感じた時に、その理由を次のように考える：俺は知能の高さを示す機会を有効に活用した／俺は自身を酷使して組織に尽くす所をみせてきた／俺は人間性とバランス感覚に優れることを常にアピールしてきた／将来有為な上司に好かれることを最優先にしてきた／人が嫌がることに率先して取り組んでみせてきた／卑劣なことを厭わず、姑息な手段を行使してもライバルを排除し自分の評判を保ってきた／以上のどれかではなくその幾つかを実践してきた・・・等々。しかし、これらの因果関係はすべて当人の思い込みで過ぎ、多くは「運」に依存しているとみるのが運命学の立場である。

よって、上記の努力をそれなりにやってきたのに全然報われていないと嘆く方に対して、私はその理由を告げることができる。あなたは運が悪いのですよと。もちろん、ルールを外れたり、然るべき機会を失ったあとでは、奇跡でもない限り幸運が舞い降りるものではない。代わりの候補者は

いくらでもいるからだ。

特に昨今の会社員は、過重労働やリスクを負うことは奨励されず、働く時間も内容も制約されるので、ますますその評価は「運」に依存する傾向にある。キンタロウ^{あめ}鮎のどの部分が特にうまいというのか？ どこをとっても均一なのだから、優劣の説明は難しいはずだ。しかし、公平公正を理想とする社会で育ってきた若い人たちは、自分の成功(あるいは不成功)には、とかく根拠が明確でなければ気が済まず、自分の描いたストーリー通りに人生が進みそうもないとなると、不幸のドン底にいるように悲観するものらしい。

5. 寺田寅彦

物理学者でありながら文学者でもある寺田寅彦は、日常の不可思議な出来事を物理学の教養で解析・説明しようと試みた。「天災は忘れた頃にやってくる」(※4)は、寅彦の危機感を後世に伝えた名言といわれている。彼の論考「厄年と etc.」では、昔から42歳が男の厄年として注意喚起されてきたことに科学的根拠はあるのかを注意深く考察している。「神話と地球物理学」においては、記紀や風土記などの説話の中にも多くの史実が含まれている可能性を述べ、大陸移動説の片鱗^{りん}さえもうかがえる。このような寅彦であれば、10干×12支の60干支に注目し、60年の倍数である120年に1度、不可避な大災害が日本を襲うなら、かつての災害経験者が不在の中、甚大な被害を及ぼす可能性が繰り返されると、考えなかったはずはないのである。

四柱推命は最高に当たる占いとして、その手法は「運命学」といわれている。その原理は、人間が生誕した時に、その時の天体位置から受ける宇宙エネルギーにより、その人の先天運が決まり、生涯にわたり影響されるというものだ。運命学は、ちょっと前の漢方薬と似ている。科学と宗教の違

いも曖昧だった時代の、気の遠くなるほど永い臨床結果の蓄積。それを日本で伝えたのは僧侶で、漢方薬が近代医学の視点から認知されたのは最近のことである。科学技術史における「放射線」もまた、測定可能な装置の開発を待たなければ仮説の域を出なかった。証明されることを待っている古来の知恵、伝承はまだ数多く残されている可能性がある。そういった期待をこめて、今回いただいた「随想」の枠内で「文系の科学」というタイトルでご紹介させていただいた。

※4：「天災は忘れた頃にやってくる」が寅彦自身の創作によるフレーズであることを示す資料はない。寅彦の弟子の中谷宇吉郎が「天災は忘れられたる頃来る」と伝えたものが、口ずさみやすい5・7・5調に転じたものと考えられる。

表3 私の命式

空 亡	時柱	日柱	月柱	年柱	
	寅	丁	甲	癸	干
寅 卯	未	未	寅	卯	支
	己	己	甲	乙	蔵干
身 旺	比肩 月令点 1 五行点 1 十二運點点 1	食神	印綬	偏官	通 変 星
	食神	食神	印綬	偏印	
	冠帯	冠帯	死	病	十二運
	天徳 血羊刃 貴人	天徳 血羊刃 貴人	病亡 符神	血白 刃虎	特殊 星
水	金	土	火	木	五 行 分 析
-	-	-	+	+	
1	0	2	2	3	
				(2)	

6. 私

私が生まれたのは午後1時ということだった。雪が多い日で、母は病院に移動するのがつらかった。父は私が誕生した報を聞き、そのまま仲間と祝いの酒宴にいき、その日のうちに現れなかったという。皆様もご両親が健在なうちに、ご自分の生誕時間を聞いておくことをお勧めする。

命式表の年柱と月柱に「空亡^{くうぼう}」(寅 & 卯)がある。私は幼少期に体が弱く、肺炎等で入退院を繰り返していた。両親から、「今のように医療が発達している時代でなかったら、お前は生存してしなかっただろう」といわれたことを記憶している。

40歳以降は運勢が強くなる形になっている。「良い五行」は「金」である。40歳より「金の運」に入り、50歳からは大運の通変星「食神」がまわってきた。現時点まで強運に支えられているが、60歳からの大運に「沐浴^{もくよく}」がまわってくる。これは、「印^{いん}綬^{じゆ}」格である私にとって、あらたな事業に打って

出るなどの冒険はやめたほうが良いことを暗示している。

私は今回、自分の命式を15年ぶりに見た。15年前の時点では、60歳以降の運勢など眼中になかった(本稿の執筆機会がなかったら、「沐浴」に気が付かなかっただろう)。だが私は今58歳。60歳以降の生活様式を想定して人生設計しなければならない年齢にある。最近まで「退職後は自分で事業をしたいもの」と思っていたが、昨今の社会情勢を踏まえても、また自分の能力を冷静に考えても、慎重に過ぎることはないと思うようになった。私の60歳以降は、『それまでの20年間』とは違う自分と直面する可能性が高い。福祉関係で何か社会とつながりをもっていければ良いとするストーリーに修正した。家内も賛成してくれている。

人生は良い時も悪い時もあるのだ。良い時にイメージしたストーリーに縛られるのは危険なことだ。

表4 私の大運の移り変わり

土の運	金の運			水の運			木の運	
69歳 8ヶ月	59歳 8ヶ月	49歳 8ヶ月	39歳 8ヶ月	29歳 8ヶ月	19歳 8ヶ月	9歳 8ヶ月	0	大運
∫	∫	∫	∫	∫	∫	∫	∫	
79歳 8ヶ月	69歳 8ヶ月	59歳 8ヶ月	49歳 8ヶ月	39歳 8ヶ月	29歳 8ヶ月	19歳 8ヶ月	9歳 8ヶ月	
丁 未	戊 申	己 酉	庚 戌	辛 亥	壬 子	癸 丑	甲 寅	干支
比 [○] 肩	傷 官	食 [○] 神	正 [✕] 財	偏 [○] 財	正 [○] 官	偏 [○] 官	印 綬	通変星
冠 [○] 帯	沐 [✕] 浴	長 [○] 生	養	胎	絶	墓	死	運勢

7. 最後に

限られた人生を「どう生きるか」は、誰にとっても究極の難問であり、誰もがその指針となる方程式があるなら求めてやまないはずである。四柱推命などは、「庚申の日の申の刻に生まれれば大泥棒になる」という迷信と五十歩百歩であろうという非難は免れないかもしれない。しかし、非合理的な感性の方が素直に胸に入ってくることがある。私はこのツールに限らず、何かをてことして自らの心に問いかけ、自分が思い描いてきた『人生のストーリー』（※5）を修正する機会をもつことは大切なことと思っている。

昨年度からのコロナ禍によって、丸々1年間を棒に振った人、1年どころか重要なターニングポイントで挑戦する機会さえなく人生の目標を失った人、「安全を最優先に」との『在宅勤務』も2年目に入り、能動的な判断基準を失いつつあるような不安にさいなまれている人・・・、特に若い方々には心より同情するが、「自分の計画した通りにはいかないこと」が頻発する時代に突入したと覚悟した方が多い。東海・東南海・南海地震はいつ来るか

知れず、富士山はいつ噴火するか知れず、異常気候は常態化し、台風による傷跡は年ごとに深刻になっている。ウイルスの変異はワクチンの開発速度を凌駕りょうがして長らく人類を苦しめるかもしれない。人は“嫌な未来”は考えたくないものだが、考えざるを得ない時代にいるとしたら、幸福に生きるためには、あまりにも頑かたくに「こうあるべき」と思い込まないことがコツであるように思える。人生のストーリーは最後に自分が納得できればいいのだから。

※5：研究によれば、多くの人が自分の人生に満足しないのは、それが自己のイメージしたストーリーに合致しないという思いにとらわれているからだという。ストーリーが私たちの幸福を支配している。（「BAKING UP THE WRONG TREE」(Eric Barker 著) 参照）

謝辞

本編の執筆において、高知県立文学館の寺田寅彦担当の川島禎子様にご教唆いただきました。厚く御礼申し上げます。



取締役
営業統括部長
八重樫泰樹

TEL. 03-6404-6033
FAX. 03-6404-6044